

# がん検診 受けていますか？

増えています！働き盛りの女性のがん



がん大国ニッポン！

日本の死因第一位はがんです。二人が一人ががんになり、三人に一人ががんによって亡くなっています。がんは早期発見・早期治療が大事なのですが、早期発見のチャンスであるがん検診受検率が日本ではとても低く、先進国の中で最低レベルです（図1）。

図1 がん検診受検率の国際比較

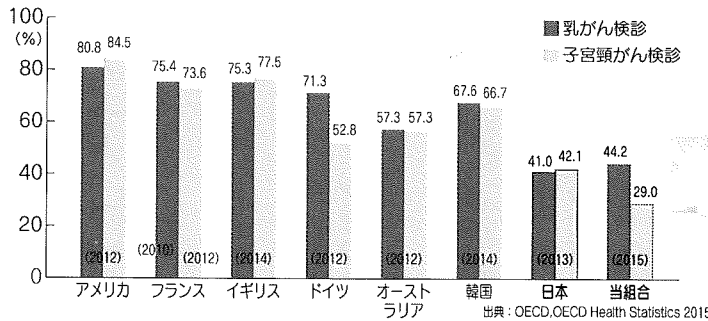


図2 日本の男女の年代別がん罹患率 (2011)

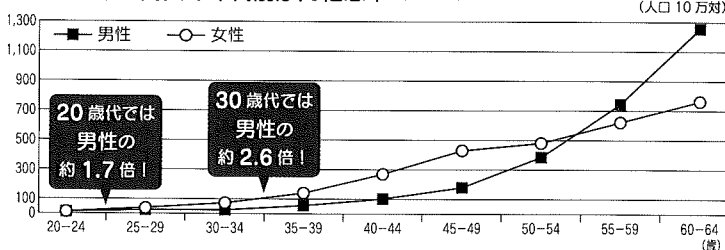


表1 国の指針で定めるがん検診の内容

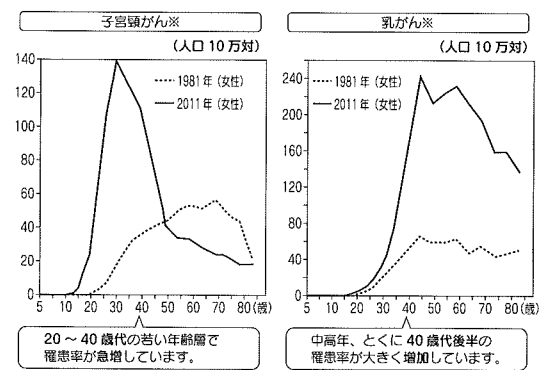
(※医療機関によって検査項目は異なります。)

検診の種類	検査内容	対象年齢	検診間隔
子宮頸がん	問診、視診、子宮頸部の細胞診および内診	20歳以上	2年に1回
乳がん	問診および乳房X線検査(マンモグラフィ)※視診、触診は推奨しない	40歳以上	

引用：厚生労働省 ～がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針～



図3 年齢階級別がん罹患率推移 (1981年、2011年)



※上皮内がんを含む 図2、図3の引用：厚生労働省委託事業「がん対策推進企業アクション」



働き盛りの女性に  
増えているがん

生涯の発がんリスクでは男性のほうが女性より高いですが、20歳から40歳代に限ると女性のがん罹患率は男性を上回ります(図2)。これは女性特有のがんである「子宮頸がん」「乳がん」が若い世代で増えていることが背景にあります(表1・図3)。

## 【子宮頸がん】

子宮頸がんの発生率は、50歳以上の中高年齢層ではこの20年間で順調に減ってきていますが、逆に20歳から29歳では急激に増加しています。子宮頸がんになった人のうち、およそ半数は20歳代、30歳代の若い年齢層です。高齢になるほど多くなる他のがんと違って、子宮頸がんはヒトパピローマウイルス(HPV)の感染が関与しており、性活動が活発な若い世代で感染の機会が増えているためと考えられています。

## 【乳がん】

40歳から50歳代の女性に多くみられ、罹患率はこの20年間で約2倍に増加しています。乳がんの発生にはエストロゲンという女性ホルモンが深く関わっています。女性の社会進出にともなう晩産化などで乳腺がエストロゲンにさらされている時間が長くなったことが乳がん増加の要因として考えられています。また、エ